

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31年2月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470101977		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームうぐいすの家		
所在地	〒734-0041 広島市南区黄金山町6番5号 (電話) 082-510-2555		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470101977-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470101977-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成31年2月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

民家改造型のグループホームです。自宅から馴染みのあるタンスや鏡台、仏壇等持ち込み生活して頂いています。共に支え合い、介助し過ぎず見守ることで、一人ひとりのできる事が継続できるよう努めています。一日の決まった日課の中でも、個々のリズムを大切にしながら過ごして頂いています。食事は手作りで出汁からとっています。季節や行事に合わせて、お弁当やおせち、お誕生日会の食事など楽しんで頂いています。散歩や掃除、町内会の祭りに参加し地域との交流を大切にしています。事業所開設以来、家庭医の協力を得ながら看取りを継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設時より掲げている理念の基、利用者に対しては、毎日生活する中で何気なく普通の暮らしが出来る様、常に気配りしながら支援に取り組んでいる。また地域の住民とは日頃の買い物や散歩等で顔見知りになり、町内会の行事にも積極的に参加し、地域にとけ込めるよう努力している。”グループホームうぐいすの家”は、同じグループ内で特に近くにある”よってきんさい本浦”とは機会があれば交流が行われている。また母体の法人は全体をカバーするため、何か有れば運営を補佐出来る体制がある。職員に対しては、国の助成金を有効に利用しながら待遇改善に努め、資格取得に対しても積極的に支援し、職員のキャリアアップに貢献している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	<b>○理念の共有と実践</b>  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	有限会社美泉開設以来の運営理念をもとに、事業所職員で年間目標を立てている。朝の申し送り時唱和することにより、意識し、目標達成に向け取り組んでいる。	事業所は法人理念に基づき、毎年度に職員が話し合いを行い目標を掲げ、利用者に寄り添った支援に活かせる取り組みがされている。職員は入社初年度に研修を受け、利用者がその人らしい暮らしを支援出来る様実践に繋げている。	
2	2	<b>○事業所と地域とのつきあい</b>  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会に加入している。総会に出席し、順番で役員を受け地域の一人となるよう努力している。町内清掃や祭りに利用者と一緒に参加し交流している。	日常的には町内の掃除に参加する等、積極的に地域と繋がる努力がされている。また地域の祭りでは事業所内に神主や獅子舞が訪れ祝詞をあげて貰い利用者に喜ばれている。職員は地域とのつきあいの大切さを理解しながら、日々支援に取り組んでいる。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会総会や推進会議で質問を受け、お答えしている。又、入居時相談時、困りごとに対するの対応方法などお話ししている。		
4	3	<b>○運営推進会議を活かした取組み</b>  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回開催し、町内会や地域包括支援センターより出席頂き、入居者と一緒に日頃の活動状況を伝えている。町内清掃や祭りの予定などを教えて頂いている。	会議は定期的に行われ関係者が出席し話し合いを行っている。会議内容は活動報告や今後の予定、又利用者の状況の報告も行い、地域包括支援センターの担当者や出席者の意見を参考に、今後のサービスに活かす取り組みがある。	会議は関係者の出席はあるが、会議の核となる家族の出席が無い。今後は会議録の記載方法の改善や、不参加の家族に会議録を送付したり、更には会議の趣旨等記入したものを同封する等して、出席を促す努力に期待したい。
5	4	<b>○市町との連携</b>  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	福祉支援を受けている方の為、担当者の面接時に立ち会い、日頃の様子を伝えている。	定期的に市町の生活保護担当者が事業所を訪れ、利用者や面談し、その際職員とも話をする等、連絡を密にするよう努めている。職員は行政主催の研修等に出席し更なる関係の構築に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルや研修により理解できている。ベッド柵は必要以上使用せず、車いす使用中も抑制帯やテーブルは使用していない。玄関は、日中解放している。</p>	<p>玄関はチャイムを利用し施錠はしていない。二階の階段上り口は、家族の了解を得て夜間のみ転落防止のため施錠している。その他夜間は個々にベルを使用し、職員の見守りを重視し拘束しないケアに取り組んでいる。言葉による行動の制限も、職員間で注意をしながら支援する姿勢がある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>社内研修で虐待防止について学んでいる。職員同士、お互い注意を払い声を掛け合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修やマニュアルで学び、必要と思われる時には、上司に報告、相談し、制度の利用を支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、重要事項説明書による説明を行い、質問を受け、納得頂けるまで説明を行っている。契約後でも、不明な点はいつでも対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。面会時にお話を伺ったり、代表者に直接お電話される場合もある。意見、要望は代表者と管理者職員で話し合い、改善する仕組みにしている。</p>	<p>来所時に直接意見を聞く機会は設けているが、苦情・要望は殆どない。利用者や家族の意見は運営推進会議等を通して、外部へ知らせる機会を設けており、職員は意見・要望が有れば運営に反映するよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティング時、または、個別に意見を聞き、会議で検討している。その結果を業務の中に取り入れ、働きやすい環境になるよう努力している。	運営に関しての提案が有る場合は、ミーティング等で職員が話し合い、意見交換（例えば体調が悪い利用者はリビングにベットを置き見守る）等、改善に繋げるよう努めている。事案によっては管理者が法人の代表に提案し、意見の反映に繋がるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	事業所への訪問や申し送り、会議などで状況の把握に努めている。社内外研修時には、勤務時間の調整を行うなど、研修が受けやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の勤務年数や仕事能力に応じて、社内外の研修に参加できるよう、案内や勤務時間の調整を行っている。資格取得時には、お祝い手当を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者との交流会に参加している。公民館でのセミナーなどに参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前、自宅や病院に面接に伺い、本人の気持ちや要望などのお話を聞きながら、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前、相談を受けた時から、しっかりお話を伺い、説明しながら関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族のお話を伺いながら、その方に合った施設が利用できるよう検討し、一緒に考えている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活の中で、それぞれができる事を助け合いながら行っている。調理や洗濯物干し、洗濯だたみ、掃除など一緒に行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時には、日頃の様子を伝えている。何か問題がある場合には、対応策を一緒に考えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や知人の面会時には、居室でゆっくり過ごして頂いている。手紙の投函や、希望時にはいつでも電話がかけられるようにしている。</p>	<p>入所時に、本人及び家族に馴染みの人や場所の支援について聞き取りを行っている。家族や知人の面会時にも声掛けをしながら、関係継続をサポートするよう努め、コンビニやホームセンターに出掛け顔馴染みになる等しながら関係の継続を大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性を考慮し、テーブル席を決めている。作業やレクリエーション時には、職員が間に入り、お互い関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院時や退去時にはサマリーを渡し、経過を伝えている。入院中は面会に行き、必要時洗濯物を持ち帰るなどしている。死亡退去時、希望があればホームで通夜、葬儀をお手伝いしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前訪問や入居後、センター方式を用いて、情報の収集を行っている。本人からの聞き取り困難な場合は、過去の生活状況や家族からの聞き取り、本人の表情などから意向をくみ取っている。	利用者の思いを把握するため、家族や関係者から話を聞き、日々の暮らしに役立てるよう努めている。希望の把握が困難な場合は、職員は話し合いを行い情報を共有し、利用者のニーズに合った本人本位のケアサービスに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前訪問で自宅や病院に伺い、自宅の様子や本人、家族、ケアマネや関係者から話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前に本人と関係者より聞き取りを行い、入居後は毎日の生活を観察し、今の状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の面会時を利用し、希望や意見を聞いている。現在できている事が継続でき、役割として励みになる計画を心掛けている。申し送り時にスタッフの意見を聞き、介護計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1度モニタリングを行い、本人や家族の要望を把握し、無理のない計画を作成している。職員は介護計画を常に確認し、長谷川式（認知症スケール）、センター方式（アセスメント方式）を使用しながら、現状に即したより良い生活を支援するよう行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活日誌に毎日の様子や状態を記録している。大切なことは申し送りノートにも記入し、職員同士共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院に同行したり、入院時には、洗濯物を取りに行くなどしている。家族が忙しい場合、書類申請の代行をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>希望時には買い物に同行したり、地域の掃除や祭りに一緒に参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の家庭医は決まっているが、入居前の病院が希望であれば、継続して頂いている。入院が必要な場合は、適切な病院を紹介して頂いている。</p>	<p>利用者の殆どは事業所の協力医療機関をかかりつけ医としており、患者との信頼が厚く往診は定期的に受けている。協力歯科医や他科へも必要に応じて受診を受けている。法人代表や管理者は看護師で有事の時は、かかりつけ医と共に24時間体制で対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の生活の中で気づきや、異常があっや場合、施設の看護師に連絡、相談している。必要時は昼夜問わず、訪問できる体制にしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は付添、サマリーなどで情報提供をしている。入院中は、面会に行き、経過を伺い、地域連携室とも連絡を取りながら、早期に退院できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した場合の話をしている。実際に重度化した場合には、家族や本人に説明、相談し、希望に添えるようにしている。</p>	<p>入所時に説明は行っている。重度化した場合、改めて家族に説明している。同事業所は看取りの経験が豊富で、必要に応じて家族は寝泊りし、管理者は協力医や家族と話し合い、職員は管理者と共に情報を共有しながら、チームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルをもとに緊急時や急変時の全身状態の確認方法や、連絡について研修で学んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の避難訓練を行っている。内一回は、夜間を想定し行っている。地域との協定は結んではいないが、推進会議で話をしている。</p>	<p>年2回その内の1回は夜間想定で避難訓練は行なわれている。職員は、運営推進会議を通じて地域住民と声掛け等、協力体制を整えるよう努めている。備蓄は本部に用意しており、有事の時の協力体制は整っている。</p>	<p>市町から配られるハザードマップを利用しながら、事業所が置かれている安全性や危険度の位置を把握し、様々な災害に対する備えが行えるよう、更なる避難準備に期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格や生活環境に合わせ、言葉かけをしている。トイレ誘導や失禁時には、不快な気持ちにならないよう対応に配慮している。	個々の利用者の生活歴を知る事が大事で、言葉かけを含め、日々の支援に努めている。職員は事業所内での研修や会議の中で、接遇や人格の尊重についての知識や対応を確認し、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食べたいもの、飲みたいものやテレビの番組や作業の選択など、選んでいただけの場面を設定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは決まっているが、その中で、その日の体調に合わせて、朝、ゆっくり休んで頂くなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装が出来るよう、衣替えを一緒にしている。汚れた服のまま過ごすのではなく、着替えの声掛けや介助をしている。男性は毎日髭剃りの声掛けをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	各事業所の統一献立があるが、体調に合わせて変更したり、お誕生日会や季節行事に合わせて一緒に作り、一緒に食事をしている。	毎日食事は3度とも手作りでやっている。毎週火曜日は「お刺身の日」にしており、利用者に喜ばれている。また職員と共に季節の料理を作る等、季節を感じられる食事を工夫している。外食も近くのファミレスに出掛け、楽しい食事が出るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>カロリー計算のしてある献立に添って調理している。生活日誌に、毎日の摂取状況や水分量を記録し、把握している。摂取状況により、食事形態の変更や捕食をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行っている。磨きの腰がある方や自力磨きが困難な方は介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄状況を記録し、パターンの把握に役立てている。夜間、オムツ使用の方でも、日中はトイレ誘導し、時間はかかるがトイレでの排泄を心掛けている。</p>	<p>利用者の排泄パターンを、職員はチェック表等通じて共有し、誘導の機会を把握し支援している。夜間はポータブルトイレを利用したり、小まめな声掛けを行う等、その人の残存能力を活かし、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表を用いて排便の確認をしている。毎朝の体操や散歩、家事作業で体を動かし、便秘時には牛乳を飲用し、腹部マッサージなど行いながら、必要時には緩下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日曜日以外は毎日入浴できる。季節に合わせ、しょうぶ湯や柚子湯など楽しんで頂いている。自分で洗えるところは洗って頂き、難しいところを介助している。</p>	<p>利用者に楽しく入浴をして貰うために、冬場はヒートショック等入浴環境にも気配りを行っている。また利用者一人ひとりの皮膚の状態や、本人希望の場合専用のシャンプー剤や乳液を使用し、安心して気持ちのよい入浴が出来るよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>食後、休息が必要な方はベッ ドでゆっくり休んで頂いている。 シーツを定期的に洗濯し、室温 の調整を行い安心して眠れる よう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬の説明書を読み副作用も含め 理解している。薬の管理は職員 が行っている。臨時薬の服用に ついては、その効果を観察し、 必要時その効果を報告している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>食材の準備や盛り付け、配膳、 洗濯物干しや片付けなど一緒に 行っている。お誕生日会やお花 見など楽しんで頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける るように支援している。</p>	<p>体調に合わせて散歩に出かけて いる。町内の祭りに出かけたり 、希望時にはスーパーに買い物 に同行している。春にはバスで お花見に出かけ楽しんで頂いて いる。</p>	<p>利用者の状態を考慮しながら、 外出を支援している。日頃は近 くへ散歩に出掛けたりもしてい るが、坂道が多いエリアのため 困難な場合がある。職員は外出 支援に対する意識はある。また 普段行けない場所には、計画を 立てドライブを楽しむ等支援し ている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金を所持している方はいない が、家族より預り金として、事 業所で預かり、散歩や買い物に 出かけたとき使用して頂いてい る。現金出納帳にて管理してい る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話は子機を使用し、いつでも使用できる。手紙の投函をお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>部屋が明る過ぎないように調整し、食後はソファなどでゆったり出来るようにしている。窓を開けたり、エアコンで室温を調整している。季節に合わせて、壁画やお花を飾り楽しんで頂いている。</p>	<p>木造の広い趣のある玄関を入ると、リビングが有り掃き出しの窓からは日差しが入る。窓の外は小さな日本風の庭が目を楽しませている。またリビングは常に利用者が集まり、好きな場所で好きな時間を過ごすことが出来る。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファや椅子を別の場所に置き、一人になれる時間と空間を作っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅より使い慣れたタンスや鏡台、置物、仏壇等を持ち込んで頂いている。落ち着いて安心できる居室づくりを心掛けている。</p>	<p>1階と2階に分かれて居室は有るが、どの部屋も日当たりが良く、収納もしっかりある。床は畳やフローリングが有り、それぞれ異なった和風造りの部屋で使い慣れた家具等が置かれ、自由にベランダに出られる等、居心地よく過ごせるような工夫がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>浴室やトイレは表示しており、皆さん迷われることなく使用されている。日中はトイレを使用されるが、夜は歩行が難しい方には、ポータブルトイレを設置している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームうぐいすの家

作成日 平成 31年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外の災害に対する訓練などの備えが出来ていない	さまざまな災害に対するのさらなる備えを行う。	ハザードマップの確認 地震や水害時の避難訓練。 地域との協力についての話し合い。	1年
2	4	運営推進会議への出席者が限られている	家族に運営推進会議へ参加して頂く。	開催曜日を考慮する。 家族に会議資料を送付し、参加を呼び掛ける。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。